



第 65 号
令 7 年 2 月
会長 岡本 諒

子供・高齢者合同クリスマス会

楽しく交流 過去最多の 91 名参加

核家族化が進み、子供と高齢者の交流が希薄になっていることから、その交流を深めることを目的としての合同クリスマス会が、12月8日（日）13時から北野联合会館にて開催されました。

受付では、各自自分の名前を書いたネームプレートを作ってもらい、少し早く来た子供達には、クリスマスツリーの飾り付けをしてもらいました。

参加したのは、申込者のうち 10 数名が欠席したものの過去最多の 91 名（子供 43 名、保護者など 36 名、高齢者 12 名）の大盛況となりました。

はじめに岡本会長から、クリスマスの由来や意味の説明、また、子供たちは地域としても大切な宝であること、子供達には、地域に愛着を持っていただきたい旨の挨拶があり会が始まりました。

最初に、今回初めての試みとして自己紹介をしてもらいました。それぞれ、名前、年齢、好きなことなど、大きな声で言う子、ちょっとはにかみながらの子それぞれ、大きな拍手がありました。

続いて、紙コップにピンポン玉を入れるゲーム、その後、家族ごとに輪になってクリスマスケーキを食べました。



一息入れたところで、サンタの登場。良い子のみんなにプレゼントが渡されました。

最後は、ビンゴ大会。賞品は、子供用、大人用それぞれ 30 本、外れても参加賞があり、この日一番の盛り上がりとなりました。



近年、若い世代の会員の増加で参加者も増え、また、おじいちゃん、おばあちゃんと一緒に三世代で参加する家族も 4 組あるなど、およそ 2 時間弱、楽しい交流の場となりました。

令和 7 年新年会 寸劇は「子連れ狼」

若い家族が多数参加

令和 7 年新年会は、1 月 18 日（土）北野連合会館で開催されました。

会は、阿部嗣雄副会長の司会進行で進められ、岡本会長からの年頭の挨拶で始まりました。続いて、ご来賓の北野まちづくりセンター所長 船戸直大様、北野地区民生委員・児童委員で北野新和町内会長 樫谷伊太郎様からご挨拶を頂き、当中央自治会相談役の伊藤昭夫さんの祝杯の発声で祝宴に入りました。

歓談の後、柳沢恒紀副会長より、今年度の新加入会員の紹介があり、8 家族のうち出席した 2 家族からそれぞれ自己紹介がありました。

余興に入り 先ず、カラオケ第一部では芸達者な 3 人が座を盛り上げました。恒例の阿部嗣雄副会長によるクイズでは、常識問題からチョット捻ったトンチ問題など 15 問が出され、スマホで検索する人も。カラオケ第二部では、正統派ののど自慢 3 人が披露した後、飛び入りで小学 1 年生の高橋一加（ひか）ちゃんが YOASOBI の「アイドル」を熱唱。子供たちや若い人たちがノリノリで声援し、この日一番の盛り上がりとなりました。

今年の岡本一座による寸劇の演目は「子連れ狼」。元公儀介錯人拝一刀が息子大五郎と放浪の旅を続けるおり、宿敵柳生の刺客が現れ大立ち回り、見事な切れ役で会場の喝采を浴びました。また、ちょっと老けた大五郎が舞台裏を暴露するなどの珍場面も。50 年前に大人気となったこの作品を若い人たちにも理解してもらうため苦労した様子がうかがわれました。

ナレーター	黒子	柳生刺客	大五郎	拝一刀	出演
橋本智子	木田 満	坂本 備	橋本良一	岡本 諒	
			表 洋子		

お楽しみビンゴゲームでは上地和男副会長が読み上げる数字に一喜一憂しながら楽しみました。

最後は太田眞福祉推進委員長による一丁締めで 3 時間の宴はお開きとなりました。

この日の参加者はインフルエンザ流行の影響もあり例年より少なめの 76 名でしたが、うち子供が過去最多の 19 名と若い世代の参加者が多く、活気に満ちたものとなり、世代間の交流も深まりました。



中学生の除雪ボランティア

福祉推進委員長 太田 眞

今年の冬は今のところ雪が少なく、除雪は比較的楽をしています。長期予報では、1～3月は札幌の降雪量は平年より多いということですので油断してられません。

自宅周りの除雪は、基本的には各ご家庭でということですが、高齢化が進んでいる現状ではご近所同志助け合い除雪していく必要があります。特にご高齢のお一人暮らしのご家庭や、身体に障がいを持たれている方など、ご自身で除雪することが困難であるご家庭は地域での支援が求められています。

札幌市ではこのような方に対応するため社会福祉協議会が窓口になり「福祉除雪制度」が設けられています。これは平成14年度からスタートしており、年々利用者が増えております。北野地区では今年度200名を超える利用があります。これはご近所のお元氣な方が協力者となって一定の要件に基づいて、利用者宅の除雪を行う制度です。この制度は協力者の皆さんのご努力に支えられています。

また、この制度とは関係なく、個人的にご近所の方の除雪を行っている方もいらっしゃいます。このような献身的なご努力に敬意を表したいと思います。

さらに、北野地区では中学生（北野中学、北野台中学）によるボランティア除雪が行われています。これは平成8年から毎冬長年にわたり続けられています。今年は約20名の中学生が参加してくれています。当中央自治会の中学生も毎年参加しており今年は2名の方が活動中です。

中学生の活動内容は福祉除雪利用者宅を協力者と一緒に除雪をするというものです。通学の途中で除雪を行って登校するので、ご苦勞は大変です。それでも、ボランティア活動によってほかの人のお役に立ちたいという想いから活動する気持ちは大変貴重です。

この活動は社会的にも高く評価され、新聞に報道されましたし全道向けの中学校の道徳の教科書にも取り上げられています。

この中学生のボランティア精神を育てているのは、ご両親や地域の人たちの日常的な公園の清掃や花壇整備などのボランティア活動です。地域の人たちの活動を日常的に眼にして自分も何かやってみたいと想起するのだと思います。

除雪活動中の中学生を見かけたら、励ましの声掛けをお願いいたします。

会員異動のお知らせ

令和6年10月29日 2区5班に三澤直人さんが入会されました。

令和6年11月16日 2区10班に成田純一さんが入会されました。

令和6年11月24日 1区5班に石塚重行さんが入会されました。

令和6年12月9日 2区4班の伊藤チャ子さんが退会されました。

令和6年12月10日 2区8班の小林正子さんが退会されました。

(令和7年1月末現在の会員数は319世帯です。)

特別養護老人ホーム「北のカミーノ」内覧会

かねてより、会員から要望が多く寄せられていた、特別養護老人ホーム「北のカミーノ」の内覧会が、12月13日（金）に開催されました。

当施設は当自治会に隣接する北野3条3丁目の北野通り沿いにあり、令和6年10月1日に開設されました。

参加した会員は30名、10時30分に集合し、10名ずつ3グループに分かれて説明を受けました。

1階には、地域交流スペースとして100名規模のホールがあり、入居者の行事の他、無料で地域にも開放し、地域の人々との交流場所として、また、災害時には、要配慮者二次避難所としてなど多目的に利用できるようになっています。他に面会者用の喫茶ラウンジ、理美容室などが設置されています。



ホール（地域交流スペース）

私たちが、散歩の途中などでトイレやラウンジをお借りすることも出来るとのことでした。（必ず受付を通すこと。）

2～4階は居室、全て個室で100名入居、全室洗面台、トイレ、ベッド、チェスト、エアコンが設置されています。浴室は、身体状況に応じて個浴、座浴、機械浴の入浴介助が出来るよう設備が整えられており、4階には設備の整った機能訓練室も。また、10室ごとにそれぞれ床や壁の色調が異なるリビングダイニングキッチンが10か所あり、家庭的な雰囲気の中で食事やくつろげるスペースとなっていました。

ここに入居可能なのは要介護3以上の人ですが、居室が空いていれば要介護1,2でもショートステイなら利用可能ということでした。

最後に、気になるのは費用のこと。サービス利用料金表による説明を受けました。

当施設は兵庫県内で高齢者介護・保育事業を展開する社会福祉法人友朋会の道内初拠点となるもので、「カミーノ」とはスペイン語で「道」を意味すること。外観も内部も洗練された意匠で、入居者は快適な環境で過ごすことができそうです。



また、施設長をはじめ、スタッフの皆さんは、とてもにこやかに、かつ熱心に接して頂き、当施設が経営に当たり、積極的に地域と交流していくという姿勢を強く感じました。